

2010年度（11年3月期） 業績予想の修正

2011年2月25日

日本電気株式会社

(<http://www.nec.co.jp/ir/ja>)

人と地球にやさしい情報社会を
イノベーションで実現する
グローバルリーディングカンパニー

NECグループビジョン2017

連結業績予想の修正

11年3月期通期

(単位:億円)

	前回予想 (A)	今回予想 (B)	増減額 (B - A)	前期実績 (10年3月期)	前年比・差 (%・億円)
売上高	33,000	32,000	1,000	35,831	10.7%
営業利益	1,000	600	400	509	91
経常利益	550	100	450	494	394
当期純利益	150	0	150	114	114

前回予想は2011年1月27日現在、今回予想は2011年2月25日現在

連結業績予想の修正理由

売上高 3兆2,000億円 (1,000億円)

- ITサービス (500億円)
国内IT投資の回復遅れの影響などで減少
- パーソナルソリューション (500億円)
既存の携帯電話端末の販売不振およびPCその他の減少

営業利益 600億円 (400億円)

- ITサービス (220億円)
売上減の影響および競争激化による収益性の悪化など
- パーソナルソリューション (160億円)
既存の携帯電話端末の販売不振の影響など

経常利益 100億円 (450億円)

- 営業利益の減少など

当期純利益 0億円 (150億円)

- 経常利益の減少 (法人税等では改善)

カッコ内の数値は、前回予想 (2011年1月27日) との増減

セグメント別 売上高・営業損益予想

11年3月期通期

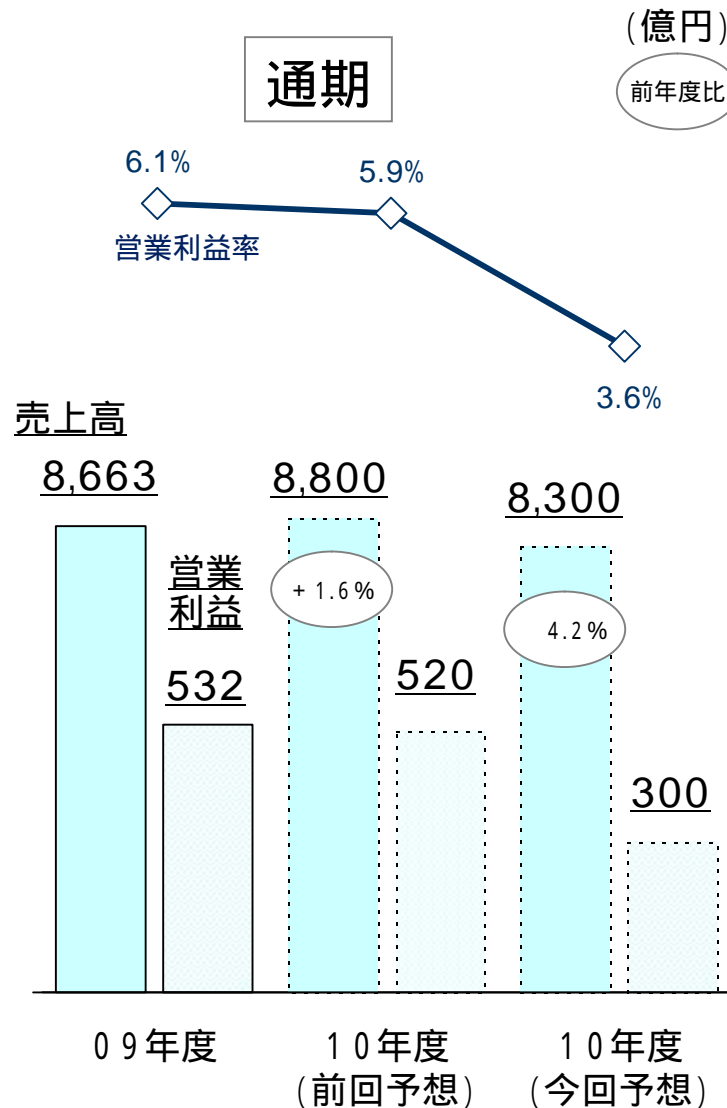
(単位:億円)

	前回予想 (A)	今回予想 (B)	増減額 (B - A)	前期実績 (10年3月期)	前年比・差 (%・億円)
ITサービス	8,800	8,300	500	8,663	4.2%
プラットフォーム	3,850	3,750	100	3,737	0.3%
キャリアネットワーク	6,600	6,400	200	6,274	2.0%
社会インフラ	3,150	3,150	0	3,166	0.5%
パーソナルソリューション	8,300	7,800	500	7,377	5.7%
その他	2,300	2,600	300	6,614	60.7%
売上高	33,000	32,000	1,000	35,831	10.7%

ITサービス	520	300	220	532	232
プラットフォーム	110	80	30	17	97
キャリアネットワーク	400	400	0	313	87
社会インフラ	150	130	20	217	87
パーソナルソリューション	160	0	160	189	189
その他	60	60	0	449	509
消去・配賦不能	400	370	30	275	95
営業損益	1,000	600	400	509	91

前回予想は2011年1月27日現在、今回予想は2011年2月25日現在

ITサービス事業 (1 / 27 予想比)



売上高 8,300億円 (500億円)

- ▽ 当期受注・売上計上案件の取り込みに注力するも、国内IT投資の回復遅れの影響を受けて悪化
- ▽ 海外の大型案件の来期へのずれ込み

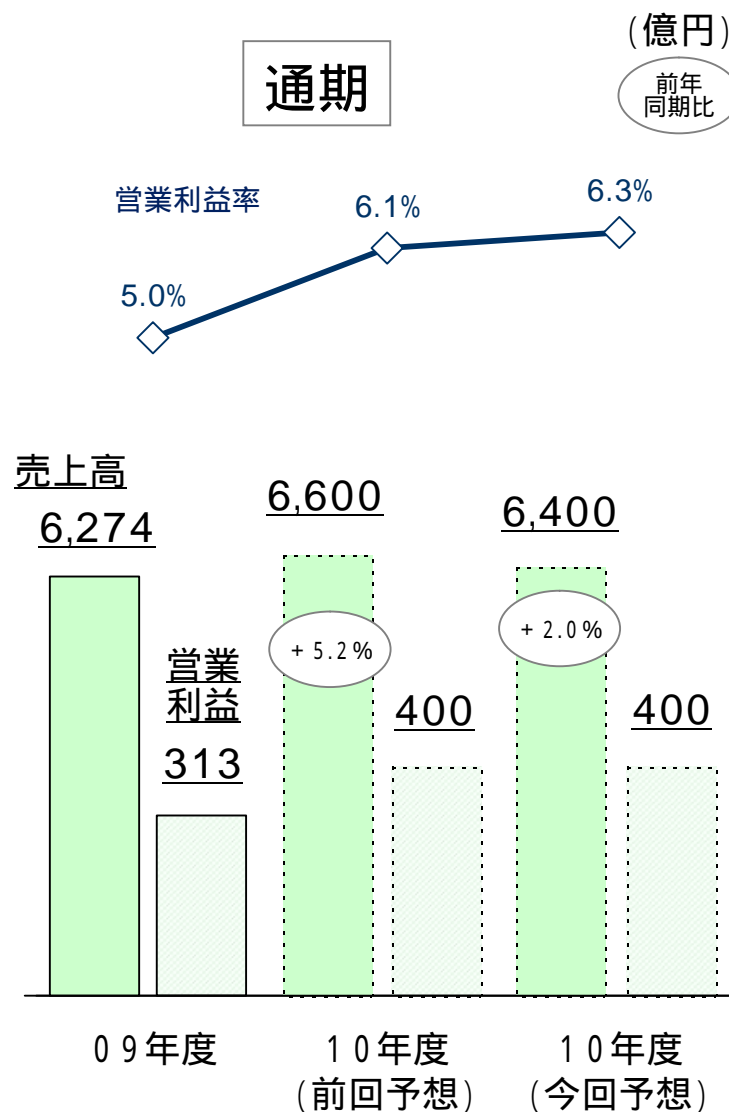
営業利益 300億円 (220億円)

- ▽ 売上減の影響および競争激化による収益性の悪化や不採算案件の発生により減少

景気回復の確からしさが確認できれば
企業のIT投資も回復。その回復に
向けて市場機会の獲得に注力

前回予想は2011年1月27日現在、今回予想は2011年2月25日現在

キャリアネットワーク事業 (1/27 予想比)



売上高 6,400億円 (200億円)

- ▶ 国内：国内移動はトラフィック増対応で堅調
- ▽ 海外：海洋システムは大型プロジェクトでの売上計上を見込むものの、海外移動等で計画を下振れ

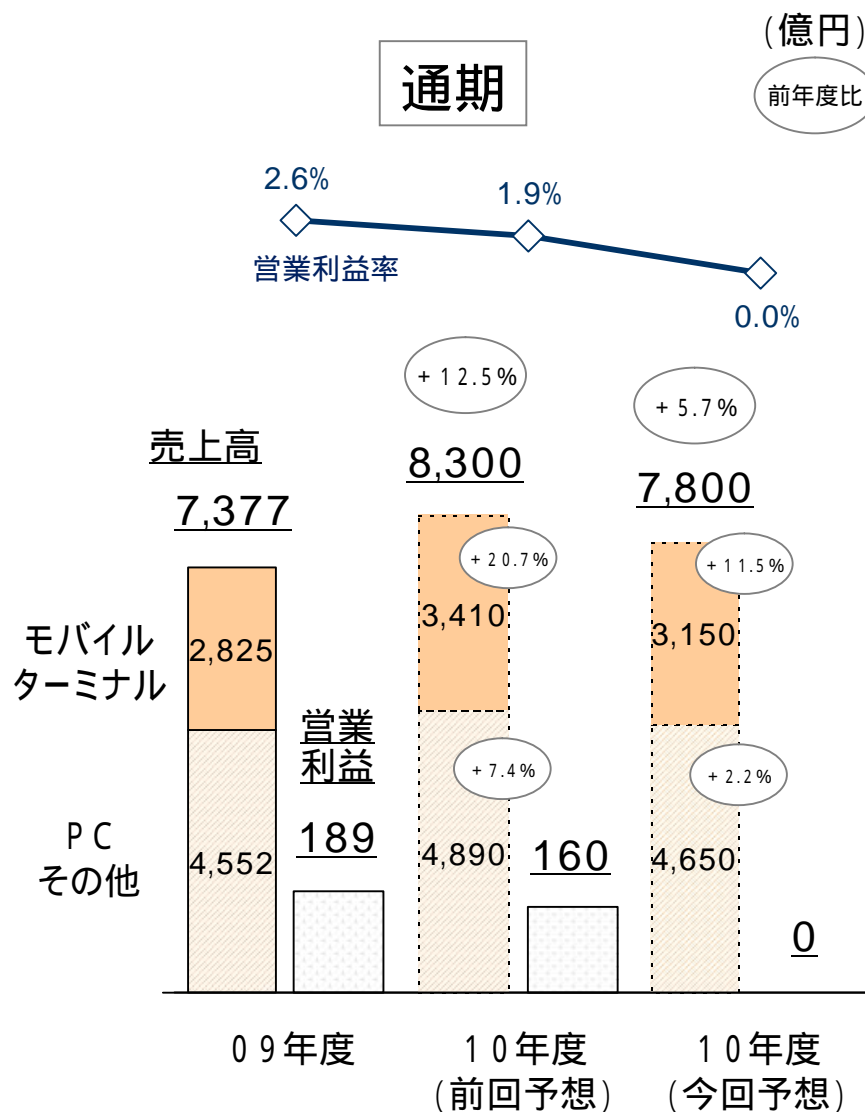
営業利益 400億円 (±0億円)

- ▶ 売上減となるも、費用効率化の推進などにより前回予想を確保する見込み

データトラフィックの増加など、事業機会の拡大を捉えて4重点領域での売上を拡大

前回予想は2011年1月27日現在、今回予想は2011年2月25日現在

パーソナルソリューション事業 (1/27 予想比)



売上高 7,800億円 (500億円)

▽ モバイルターミナル：

国内でのスマートフォンの前倒し投入を図るものの、既存端末の販売が減少

▽ PCその他：

PCのチップセット供給問題による製品ミックスの悪化、新端末商談の来期へのずれ込み、海外ディスプレイの販売減などにより減少

営業利益 0億円 (160億円)

▽ 既存の携帯電話端末の販売不振など
売上高の減少により悪化

競争力あるスマートフォン、
新情報端末の展開により
売上拡大と収益改善を目指す

前回予想は2011年1月27日現在、今回予想は2011年2月25日現在

Empowered by Innovation

NEC

< 将来予想に関する注意 >

本資料には日本電気株式会社および連結子会社（以下NECと総称します。）の戦略、財務目標、技術、製品、サービス、業績等に関する将来予想に関する記述が含まれています。将来予想は、NECが金融商品取引所や関東財務局長等の規制当局に提出する他の資料および株主向けの報告書その他の通知に記載されている場合があります。NECは、そのような開示を行う場合、将来予想に関するセーフハーバー（safe-harbor）ルールに準拠しています。これらの記述は、現在入手可能な仮定やデータ、方法に基づいていますが、そうした仮定やデータ、方法は必ずしも正しいとは限らず、NECは予想された結果を実現できない場合があります。また、これら将来予想に関する記述は、あくまでNECの分析や予想を記述したものであって、将来の業績を保証するものではありません。このため、これらの記述を過度に信頼することは控えるようお願いいたします。また、これらの記述はリスクや不確定な要因を含んでおり、様々な要因により実際の結果とは大きく異なりうることをあらかじめご了承ください。実際の結果に影響を与える要因には、(1)NECの事業領域を取り巻く国際経済・経済全般の情勢、(2)市場におけるNECの製品、サービスに対する需要変動や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてNECが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供し続けていくことができる能力、(4)NECが中国等の海外市場において事業を拡大していく能力、(5)NECの事業活動に関する規制の変更や不透明さ、潜在的な法的責任、(6)市場環境の変化に応じてNECが経営構造を改革し、事業経営を適応させていく能力、(7)為替レート（特に米ドルと円との為替レート）の変動、(8)NECが保有する上場株式の減損をもたらす株価下落など、株式市場における好ましくない状況や動向、(9)NECに対する規制当局による措置や法的手続きによる影響等があります。将来予想に関する記述は、あくまでも公表日現在における予想です。新たなリスクや不確定要因は随時生じるものであり、その発生や影響を予測することは不可能であります。また、新たな情報、将来の事象その他にかかわらず、NECがこれら将来予想に関する記述を見直すとは限りません。

本資料に含まれる経営目標は、予測や将来の業績に関する経営陣の現在の推定を表すものではなく、NECが事業戦略を遂行することにより経営陣が達成しようと努める目標を表すものです。

本資料に含まれる記述は、有価証券の募集を構成するものではありません。いかなる国・地域においても、法律上証券の登録が必要となる場合は、有価証券の登録を行う場合または登録の免除を受ける場合を除き、有価証券の募集または売出しを行うことはできません。

(注)

当社の連結財務諸表作成に関する会計基準は「日本会計基準」を採用しています。

年度表記について、2009年度は2010年3月期、2010年度は2011年3月期（以下同様）を表しています。